2023/8/30

リトルハウス通信

今月のリトルハウス通信は、精神保健の領域で使われている「リカバリー」という概念を就労継続支援 B 型施設であるリトルハウスと結び付けて、日々考えていることをつらつら書いていきたいと思います。

就労継続支援 B 型事業所は、雇用契約に基づく就労が困難である方に対して、 就労や生産活動の機会の提供 就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、その他の必要な支援を行う施設として存在しています。

厚生労働省による「障害者福祉施設における就労支援の概要」の「具体的な利用者のイメージ」によると、就労継続支援 B 型事業所の代表的な施設利用者の例として、

・就労移行支援事業を利用したが、必要な体力や職業能力の不足等により、就労に結びつかなかった者
・一般就労していて年齢や体力などの理由で離職したが生産活動を続けたい者
・50 歳に達しており就労が困難な者

と示されています。この文章からもわかる通り、就労継続支援 B 型施設は「それぞれの事情を抱えた方々の生産活動の場」ということができるでしょう。

しかし実際の就労継続支援 B 型施設の利用者の方々は、生産活動と同等に、他者との交流、通所による生活リズムの安定、安心して過ごせる地域の所属先等をニーズにしているケースが多くみられます。

即ち「生産活動の提供の場」と「他者との交流や安心できる居場所」としてのニーズが、同等の価値として存在しているといえると思います。

その中で重要なキーワードとなってくるのが「リカバリー」です。リカバリーには多種多様な解釈がされていますが、「病や障害に挑戦して、自分の人生を取り戻そうとしている過程」（※1）と定義されたり、「かつての自分にもどることではなく、新しい何かになるための物語であり、自分自身の変化の物語」（※2）であると語られたりしています。

その起源は 1980 年代後半のアメリカにおける精神専門誌にユーザーが連載した一連の手記から捻出された（※3）という説や、1980 年代後半より、アメリカにおいて、セルフヘルプ、ピアサポートの活動、クラブハウス活動などにその端緒がある（※4）ともいわれています。いずれにせよ 1980 年代後半のアメリカで生まれた概念です。

そのリカバリー概念の中にはいくつかの類型があり、とりわけ最近注目されているのは、パーソナルリカバリーという考え方です。パーソナルリカバリーとは、リカバリー以上に当

事者の主観性が重視されていて、個々人の「実感」を大切にしたリカバリーの道のりを指し「人生の復権や主観的な回復」（※5）とも定義されています。

就労継続支援 B 型事業所は「就労の機会を提供する場」を前提としながらも、他者との交流や安心できる居場所の中で、個々人が固有の喜びや楽しみを発見したり感じたりする場でもあり、その内容は個人によって千差万別です。それが即ち「パーソナルリカバリーが促進される」ということだと私は考えているのです。

就労継続支援 B 型事業所に集う利用者の皆さまには、それぞれに個性があり、固有の目標があります（目標を模索している途中、という場合もありますね）。その中で就労活動を基本としながら、どのタイミングで、どのような出来事によってパーソナルリカバリーが促進されていくかはわかりません。しかし B 型事業所にはパーソナルリカバリーが促進されていく可能性が十分にある事業体であり、我々支援者は就労提供と同等に、パーソナルリカバリーが促進されていく過程を見守りながら応援する役割があると考えています。

（鈴木）

■引用文献

野中猛　図解　リカバリー　医療保健福祉のキーワード　2011　中央法規出版

パトリシア・ディーガン　私のリカバリーストーリー/メディケイション・エンパワメント　2022 年　精神リハビリテーション学会誌

稗田里香　アルコール依存症者のリカバリーを支援するソーシャルワーク理論生成研究　2017　株式会社みらい

池淵恵美　エビデンスに基づく実践（EBP）とパーソナルリカバリーの時代　2017　精神リハビリテーション学会誌 Vol21　No2

■参考文献

西田玲子　就労継続支援 B 型事業所の役割と報酬改定　2022　筑波法政　第 89 号

チャールズ.A.ラップ　リチャード.J.ゴスチャ　監訳者　田中英樹　ストレングスモデル【第 3 版】リカバリー志向の精神保健福祉サービス　2014　金剛出版

パトリシア・ディーガン　私のリカバリーストーリー/メディケイション・エンパワメント　2022 年　精神リハビリテーション学会誌

岡本隆寛、広沢正孝、四方田清、松本浩幸　就労継続支援 B 型事業所を利用する統合失調症者のリカバリーに影響する要因　2015　医療看護研究　第 12 巻 1 号

村井俊哉　リカバリー支援ガイドラインのあり方　2016　精神神経学雑誌　118